

第9回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025年12月2日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：40名

◇内容：学習指導案の相互検討②

【ルーム1】 ファシリテーター：長谷川かおり（奈良教育大学）

1)坂田初美先生(滋賀県草津市立玉川こども園) 5歳児 「立命館大学の留学生と交流会をしよう」

多文化の理解には子どもによって差がある 直接遊びを通していろいろな国の人と関わらせたい
運動会も「玉ちゃん万博」として様々な国旗を描いたりした

5名（中国、バングラデシュ、インドネシア、パキスタン）が来園、交流会

自己紹介 質問（自分の興味のあること：お菓子、遊び、動物など）

「My name is ~」自分の名前を伝え、いす取りゲーム

「きらきらぼし」を英語で一緒に歌う

「もっといっしょに遊びたい」「また来てほしい」「日本はどうなのかな？」

自分の国の文化に興味をもつ 「七五三で着物を着たよ」「お祭りでも着たよ」

意見交流から

- ・直接体験の大切さが実感できる。いっしょに遊んだり歌を歌ったりした経験は大きい。
- ・事前準備がしっかりできていたから大きな成果があった。職員もわくわくしながら準備していた。
- ・保護者にも子どもの変容についてアンケートをとったら、成果の新たな視点が見えてくるかも。
- ・評価の観点はできるだけ絞った方がいい。

2)高松美香先生(滋賀県草津市立玉川こども園)

5歳児 「からだのはなし～自分の体もだいじ 友だちの体もだいじ～」

国の指針に従い、健康診断でも他の子どもの裸を見ない対策をとっている

しかし、プールの着替えのときなど裸でうろうろする子どももいる 抱きつきに行く子どもも
→プライベート-partsの話をしたい 性教育の観点から「他人の体に触れるには同意が必要」

体のことだけでなく心も大事に 自分の体も友だちの体も

導入で絵本「うみとりくのからだのはなし」を利用

体に触れられたときにうれしいか、うれしくないか、プレートを使って判断させる

→「プライベート-partsは、見るのも触るのも自分だけ」

トイレが外から見えてしまう → パーテーションを立てる

意見交流から

- ・子どもの中で感じる視点、考える視点が変わったと思う。
「じーっと見るもんじゃない」「気を付けないと！」 儲値観と行動変容につながっている。
- ・教えてもらうことで、自分の行動を見つめ直すことにつながっている。
スキンシップが過剰になっている友だち同士の場面は多くある。
- ・子どもの発達を踏まえた指導になっていて、このあとの様々な学びにつながると思う。

3)伊藤華子先生(滋賀県草津市立玉川こども園) 5歳児「カレーパーティーをしよう！」

地域の人に手伝ってもらいながら育てた野菜でカレーパーティーをする

年中、年少の子たちとも一緒に食べもらう → みんなが食べられる具材を考える（取材）

おいしいカレーを作るために「隠し味」の研究

招待状づくり、会場の飾りつけ、買い物 自分たちでやりきる喜びを感じることができた

野菜の皮やくずはコンポストに入れて土に変える

意見交流から

・異年齢との交流や、地域の人との関わりがふんだんにあって、これまでになかった活動になっている。

・自分たちで考え、自分たちで行動して「やりきる」喜びを実感できた活動になっていると思う

・ESD との関連はもっと絞った方がどういうところを目指した取組なのかがはっきりしてくるのでは。

【ルーム2】 ファシリテーター：阿部友幸（山形県立上山高等養護学校）

1)浅野稜太先生(千葉県立柏陵高等学校)

高校3年 外国語科「各地の災害とつなげる、地元千葉県の災害について」

導入：世界遺産ベニスと厳島神社の写真を見せて、共通点を考える→水害がかかわっている

その後、英文の読解など、早足になってしまった。

自分たちにできる水害対策は？

外国人でも分かる、ハザードマップの作成、防災カード（被災時に役立つ英語のカード）の作成

ハザードマップは時間がなくてできなかった。

授業後、徐々に意識が薄れてしまっているところがある

意見交流から

・目標は外国語の目標にはなっていないのではないか。

　外国語をベースにした上での総合などであれば、このままでもよいのでは。

・単元展開は良いと思う。いかに英語に寄せるかということが重要ではないか。

・英語の単元の指導例の言葉をもっと使えば、教科に寄せられるか。

・奈良県の王寺町は大雨が多い。ALTは英語表記が周りになくて困ったということもあった。

・地元の千葉県の川の様子について、英語の学習で活用するのはとても面白かった。

・「伝える」ことが大事。誰にどう伝えるか。防災カードより、ハザードマップを描いたりする方が良いなら、指導案は理想形に書き直してよい。

・実際に外国の方とつながって発信するなど、外部資源の活用も考えてみてはどうか。

2)吉田宏先生(奈良県立磯城野高等学校) 高校1年 理科（生物基礎）「生態系とその成り立ち」

生徒は理科嫌いが多いが、授業で興味を持つ子も多い。勉強の仕方が変わる子もいる。

「農業」の授業も同時進行で関連させながら実践している。

自分事として捉えるようになってきた。

どうすれば環境にやさしい農業ができるか、よく考えるようになった。

消費者のことも考えた農業も考えている。

農業クラブ活動（教科の農業の中に位置づけられている）

意見交流から

・農業は、環境に配慮することが大事ではあるが、仕事であるからには、生業として成立しなければな

らない。生業として成立する農業のあり方にも言及しても面白いのでは。

- ・身に付いた資質能力について具体的に述べられるとさらによい。
- ・農業と理科の連携は、実際に学校では難しいこともあるが、その一例を知ることができてよかったです。
- ・授業者が理科も農業も担当していたからこそカリマネが成立していた。異なる教員でそれらの授業を担当したら難しさもあったかもしれないが、実践の発信を校内外に行うことを続けて、周りも賛同し、ESD の取り組みがしやすくなるのではないか。
- ・賛同する人が増えるといいが、誰かが困っているときに ESD の観点を踏まえて話ができると仲間が増えしていくのではないか。
- ・ESD については、管理職を味方につけてやるとやりやすい。
- ・先生たちの負担感なくできることを強調して伝えるとよいのでは。

3)富樫智子先生(山形県立鶴岡中央高校)

高校2年 総合的な探究の時間 「先輩から学ぶ 自分と社会のつながりを考えよう」

外部の人に対しても、自分の意見を堂々と伝えてほしい

ゲストティーチャーを招いて、そのかかわりを通して社会や職業について考えてほしい

生徒たちは地域への関心が薄い

夏休み中にインタビュー活動

地域で活躍している人をゲストティーチャーに招いて話を聞く

ゲストティーチャーの話をまとめ、自分が社会にどう貢献するか考える

意見交流から

- ・どんな人にゲストティーチャーで来てほしいか。
→これまで自営業の人を招くことが多かったが、生徒が親近感をもてるよう、市役所で働きつつプライベートでバンドをしているような人を招きたいと思っている。
- ・鶴岡から離れる生徒が多いという話があり、それに迫る活動があってもよいかと思った。鶴岡にいてもできること、地元の良さなどと関連付けられないか。鶴岡に住んでいる海外の方に話を聞くのも楽しそう。
- ・SDGs の「住みやすい街づくり」との関連で、どんな街に住みたいか、自分はこの街のために何ができるだろうかということから考えることもできるか。
- ・例えばサッカー選手であれば、競技だけでなく、仕事として社会貢献していることなどにも触れると、社会とのつながりを意識しやすいか。

【ルーム3】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1)瀧村尚也先生(麗澤高等学校)

高校1年 地理総合 「日本の自然環境と防災:東日本大震災から考える防災と共生」

東日本大震災で大きな被害を受けた福島を題材として学ぶ。

すでに高校一年生にとって教科書の出来事となっている。

福島を題材とすることは、「環境学習」、「エネルギー学習」、「世界遺産や地域の文化財等に関する学習」、「国際理解学習」、さらには「気候変動」や「生物多様性」にも関連する学びを創ることができる单元は東日本大震災について概要を学び、自然災害と共生していく方法を学ぶ学習。次の单元として、

魅力的なまちづくりプランを考える授業につなげていく予定。

この次単元とセットで考えるとより行動化まで含めた計画となるのではないか。

2)真柴さなえ先生(愛媛県松山市立勝山学校) 中学校1年 総合的な学習の時間「地域に生きる」

身近な地域で去年起きた土砂災害時の経験を活かして取り組んだ防災の授業

災害時の行動を考えるマイタイムラインや避難地図(逃げ道マップ)を作成したり、防災街歩きをしたり、地域の方や家族に紹介したりした。

ゲストティーチャーは市がいくつか紹介してくれているので、そこから選んで招聘することができた地域の活動について知るというのは自分事として捉えやすい

活動が揺れているようにも思える。活動は子どもそれぞれがそれぞれに気づきをていく。その差をうまく使って活かすような、振り返りの時間を上手くつくっていくことが大切だ。

3)濱岡桜さん(NPO 法人 NELIS)

高校2年 総合的な探究の時間「パレスチナ問題から考える世界と日本の関わり」

国際問題の一つであるパレスチナ問題について、歴史的背景や宗教、経済、国際社会のかかわりなどを多面的多角的に探究する。

高校生が調べたいと思えるかどうかがポイントになる。

パレスチナ問題は生徒との距離が大きい。生徒たちとパレスチナとの関りがどこにあるのか、そのつながりを見つけておくことが大切だと思う

【ルーム4】 ファシリテーター：中村友弥(奈良市立朱雀小学校)

1)中村文子先生(奈良市立西大寺北小学校)

小学校5年 音楽科・総合的な学習の時間「ちいきにつたわる音楽に親しもう」

単元の段階

内容

みつめる 日本各地に「おどりや舞」があることを知り、興味のあるものを調べ、紹介文を作って伝え合う。(ソーラン節、阿波踊り、神楽など)

しらべる 奈良市に伝わる「おどりや舞」は何かを振り返る。「おんまつり」について、おどりや舞のイメージがわかないという課題を認識する

ふかめる ゲストティーチャーとして南都楽所さんを招き、舞楽、舞について衣装や踊りのインタビューを実施する。

ひろげる インタビューしたことを参考に発信し、舞楽や舞のインフルエンサーになろうとする。校内だけでなく、カンボジアに向けての発表を目指す

意見交流から

- ・音楽専科であるため、学年をまたいだカリキュラム編成や多様性を取り入れる提案。
- ・日本各地の祭りから奈良市に焦点化し、カンボジアと交流するまでのプロセスが重要である。
- ・音楽を通した文化的な交流に価値を見出すことや奈良の伝統的な教材の魅力が感じられる。
- ・実際の国際交流における言語の壁や打ち合わせの課題解決として「やさしい日本語」の活用をしたい。
- ・カンボジアの学校では学習指導要領がなく、学校で学ぶことを決められる。

2)大東実穂先生(奈良市立西大寺北小学校) 小学校6年 家庭科「すずしい住まい方で快適に」

単元の段階

内容

みつめる	夏の過ごし方を振り返り、健康に快適に過ごすことができていたかを検証し、課題を見つける
しらべる	夏を快適に過ごす方法を、お家人へのインタビューやタブレット調査、動画視聴、実体験を通じて理解を深める
ふかめる	ゲストティーチャーを招き、日本の文化や地域の話を聞く。平城宮跡の荻や葦を使い、すだれや室外機カバーを作り学校に設置する
ひろげる	昔からの自然素材を使うことは環境にもやさしいという視点を発信する

意見交流から

- ・計画停電など電気が使えない状況下での「すずしい住まい方」への問い合わせが大事。
- ・エネルギーの問題は、子ども国会で興味関心を持っていた内容と関連付けできる。
- ・室外機のカバーを作る目的が、なぜ冷房機能の低下を防ぐためなのかという「なぜ」を大切にする必要性。
- ・日本の「昔の知恵」を活用する視点の重要性。

3))掛川良治先生(千葉県八千代市立睦小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「SDGs プロジェクト ~みんなで考えよう世界のこと~」

単元の段階

内容

みつめる	SDGs スタートブックやサイトを活用して、SDGs のテーマを決める
しらべる	「ユニバーサルデザイン」「地域をきれいにする活動」「アートと活動の融合」「分別ボックス」など、いくつかのグループに分かれて活動する
ふかめる	児童の働きかけにより車椅子1台が寄付される。分別ボックスの設置、アート作品としてのペットボトルツリーの制作・展示を行う
ひろげる	地域のバザーでの発信や、地域の方の協力を得ながら、シンガポールと持続的に交流する

意見交流から

- ・子どもたちが SDGs スタートブックを通じて「ごみ」にたどり着いた流れ（地域のごみのポイ捨てが多い様子を児童が観察したこと）が具体的に確認されました。
- ・アート活動が文化的な手法として評価される。
- ・見せかけの SDGs だけでなく、子どもの行動変容を大切にした授業づくりの重要性。
- ・教員の指導や子どもの活動の「足跡」をより詳細に残す指導案に。
- ・ユニバーサルデザインの活動で、児童が行政を動かし、車椅子が寄付された経緯がすばらしい。
- ・シンガポールとの交流は、語学留学のような形式で継続している。

【ルーム5】 ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

1)吉田剛先生(茨城県つくば市立竹園東小学校)

小学校3年 総合的な学習の時間「竹園のまちのたからもの～地域のまつりを調べよう～」

「まつりつくば」を教材として取り上げる

筑波市は、先住民（昔から住んでいる人）と新参者とで構成されており、両者の軋轢が生じている

そのため、両者の交流を深めることにつながる実践にしたい

・つくばはAI活用が推奨されている。

→AIも大事であるが、人との出会いなども重要なのではないか？

・調べ学習を3回行う。調査方法として、自分の親への聞き取り、インターネット

・昔から住んでいる人をGTに招き、人と人のつながりが疎遠になっているということをお話していただく。

・間が開いたことで、筑波の未来を考えたいという方向性に変化し、想定していた先住民と新参者の軋轢という課題解決から逸れたことが課題。

・ウェルビーイングを重要視している。→様々な立場の人々とのつながり

「つくばの未来を考える」を、「つくばの未来を考えきた人」に焦点を当てることで軌道修正は可能なのではないか。

2)長江昂大先生(大和郡山市立片桐西小学校) 小学校2年 生活科「とびだせ！町のたんけんたい！」

・人とのつながり濃いことは良いが、そのつながりが当たり前であるからこそ、良さに気づけない人が多い。

・町探検で、我がまちの良さを発見し、自分自身も町の良さをつくっている一員になることを目標としている。

・生活科だからこそ、児童の個人的な意見を大事にした方がローカルな学びに変わっていくのではないか。

3)中谷栄作先生(和歌山県橋本市立高野口小学校)

小学校4年 総合的な学習の時間「信太好き！思い出の祭をとりもどそう！」

総合的な学習の時間の一から作るために、地域を巡った

しかし、児童の関心は、児童の数人が住んでいる信太地域であった。信太に実際に行ってみる。

「信太のことをもっと知ってほしい」「信太ゴッドフェスティバル」の開催に向けて

「自律・協働・利他」を柱に

【ルーム6】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)植木凡子先生(東京都白百合学園小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「伝統の心を受け継ぐとは～建学の精神を知る～」

みつめる 自分はどんな6年生になりたいのかを考える

しらべる マ・スール（修道女）の話を聞く

ふかめる マ・スールの話を聞いて自分の考えたこと、感じたことをまとめる

ひろげる 学んだことをもとにステンドグラスを作ったり、他者に伝える活動をしたり、校歌の3番を子どもと一緒に考えたりしてみる

・建学の精神をもとに、子どもたちにマ・スール（修道女）の話を聞いたり、関わったりすることで様々な考えに触れ受け止める力と自分の中で学んだことをかみ砕いて実践できる力をつけたい。

・昔と今の「建学の精神」の違いに触れて、様々な考え方があることを知り、共有するだけではなく活動に繋げたい。

意見交流から

- ・話を聞いて、自分たちで考える活動で終わるのではなく、他者に伝える事で相手意識を持つことができていて素晴らしい。
- ・マ・スールのお話を聞いて、自分にできる事や何かしたい事まで繋げられると良い。また、それぞれの内面の変化を促す活動であるため、発信の方法も子どもによって変えればいいのでは？
- ・学校の精神をもとにした実践で素晴らしいと思いました。
- ・持続可能性を捉えなおし、見つめなおせるため他の教科にもつながるため良い実践である。

2)大浦侑唄先生(和歌山県白浜町立南白浜小学校)

小学校4年 総合的な学習の時間 「白浜みらいプロジェクト」

「10年後の白浜をどんな町にしたいのか」を中心に据えている。

また、3つのプロジェクトに分けて取り組んでいる。

K（環境）プロジェクト・D（伝統文化・産業）プロジェクト・B（防災）プロジェクト

1学期 地元の環境について調べ、話を聞き、新聞にまとめた

2学期 伝統文化・産業を引き継ぐために、地元の伝統や日本各地の伝統を学んだ。そこで学んだことを、HPにまとめた

3学期 自分たちの町は、学んだことと照らし合わせると地震や津波の被害が大きくなる予想ができる。そのため、地域の取り組みを知ることで自分たちにも出来ることを模索している。防災について学ぶことで、「おびえるのではなく、安心してくらせる」ように自分がどのように行動するのかを考えさせたい。

意見交流から

- ・3つとも素晴らしい活動ではあるが、どれか一つのプロジェクトに絞って指導案を作成する方が、内容や視点が散らばらなくてよいと思う。
- ・子どもの価値観や行動の変容を防災の活動を通して促せている為よい取り組みだと思う。
- ・保護者と学校は連携しながら防災学習を進めているのか？
→事前アンケートで防災バックを準備しているのか、防災意識の高さを聞いている。

3)鈴木郁香先生(千葉県柏市立高柳小学校) 小学校4年 総合的な学習の時間 「SDGs 探究」

○SDGsの目標に照らし合わせ、社会課題の本質を捉えられる様々な活動を目標にしている。

・地域のごみのリサイクル・分別に注目をした。

・地域の方が、ペットボトルを集めて、イルミネーションツリーを作っていたため、4年生がペットボトルを集める作業を手伝った。

○様々な活動を通して、日常とSDGsを繋げたいと思っている。また、世の中の課題と学習内容が繋がっていることに気付き、行動をして、それらを広げられるようにしたい。

意見交流から

- ・子どもたちは、土日に開催されるツリー作りに参加するのか？
→習い事などがあり、参加率はよくない。
- ・まだ、それでは他人事で終わっている。自分たちで何かを作る活動を通してさらに学びを得ることができて学びの深まりにもつながる。3学期の6年生を送る会などで活用してみては？

- ・ツリーを作り終わった後の処理にまで考えが及んでいなかったため、その後のことを考えさせてることが大切である。
- ・SDGsについて学ぶなら、教師が細かいプランを持っておくといい。
- ・既習事項を活かして、校内の課題に目を向けることもSDGsの学習において有効である。

【ルーム7】 ファシリテーター：藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）

1)高山翔伍先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校6年 総合的な学習の時間 「平和の思いを未来へ～戦後80年の平和学習」

- ・8月6日に広島へ行った際の式典の準備風景を取り上げ、その様子を子どもたちに伝えてから単元をスタートさせた。
- ・1学期に行った、遺跡巡り（町観光ボランティア）時のエピソードから広島での平和学習につなげ、研修旅行から帰った後、王寺町の戦争体験者からお話を聞く
王寺→広島→王寺（奈良）のことを扱う

意見交流から

- ・王寺町の戦争体験者と先生自身が出会い、そこから子どもたちとも出会わせたことに価値がある。
- ・平和式典の準備から扱ったのがよい。自分も何度か式典に足を運んでいる。お参りをされている方からお話を聞くと、より切実に受け止めることができる。
- ・「平和教育を問い直す」という書籍がある。被害一加害一抵抗一加担などの立場を構造的にとらえさせることが大切。
- ・5年生で学習した国語科の「たずねびと」を6年生になってもう一度読ませた。川に着目する児童が多かった。
- ・平和学習のまとめを低学年の子どもたちにも分かりやすく伝えるのが難しい。伝え方を工夫する必要がある。
- ・生駒の遊園地、人を楽しませるものが、飛行塔は戦争につながっているものになる。
- ・自分の親戚に、王寺町に住んでいて、赤紙をもらって戦死した方がいる。何かお役に立てるお話や資料を親族から提供できるかもしれない。

2)中川純一先生（生駒市立俵口小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間 「みんなが安心安全に住み続けられるくらし」

- ・福祉の学習を進めるうえで、人の営みや温かみを感じられるようにしたかった。
- ・福祉の新たな視点、単に社会的弱者のインフラのためでなく、同等の関係、ネガティブからポジティブに変えるように本質をとらえて展開できるように心がけた。
- ・「赤い羽根共同募金」の取り組みを導入に活用した。また、優先座席の長所と短所も考えさせる教材にした。（優先座席があることによって、生まれない優しさ）
- ・手話、点字、車いすなどの体験学習に力を入れた。
- ・福祉を支える方、車いすバスケットの日本代表選手等の出前講座を充実させていく。
- ・単元終盤の課題設定、福祉を「生かす」とはどのようなことだろうか。は適切か。

意見交流から

- ・福祉の学習は、車いす、アイマスク体験など、やっておわりになりがちだが、出前講座を入れるなど、単元の学習が充実している。

- ・本質にせまる部分で、どうしても健常者が障がい者を見下してしまうような姿勢（助けてあげる）になってしまう。配慮されているものを悪用したり、不本意に扱われたりしている事例を紹介するのもよいかも。
- ・優先座席を取り扱うのが面白い。以前、阪急電車が優先座席をなくしたが、結局もとにもどるエピソードがある。
- ・優先座席の個数や場所は昔から変わってないのはなぜ？高齢者は増えているのに。というようなことを取り上げても面白い。
- ・思いやりと心遣いは違う。思っているだけでは伝わらない。行動化を促す。
- ・社会的弱者＝不幸 ではない。
- ・福祉は、社会全体の仕組みや取組のこと、健常者も障がい者もみんな公平でなければいけないという視点。
- ・福祉をハード面でとらえているのは、教材の魅力的なところ。福祉のマイナスをゼロに、フラットにだけで終わるのではなく、プラスにかえる。すべての人にとって平等で、公平なものと豊かに捉えられるような態度を育めるとよい。